

(仮称) あきる野市自殺対策推進計画策定に向けた関係団体へのヒアリング結果

1 実施概要

(1) 実施の目的

市の行政運営に関係し、活動をしている市内各種団体を対象に、自殺対策に係る情報を交換するとともに、市が認識すべき課題や、推進すべき施策等に関する各団体の意見を把握し、(仮称) あきる野市自殺対策推進計画の策定を行う上での資料とするために実施しました。

(2) 実施期間

令和元年8月23日(金)～9月2日(月)

(3) 対象団体と実施日時

団体名	実施日時	会場
あきる野市町内会・自治会連合会	8月23日(金) 19:00～20:30	市役所5階 会議室
あきる野市高齢者クラブ連合会	8月28日(水) 15:05～16:00	あきる野市社会福祉協議会 五日市事務所
あきる野市青年会議所	9月2日(月) 11:00～11:50	市役所4階 会議室
あきる野商工会	9月2日(月) 13:30～14:30	あきる野ルピア3階

(4) 意見等の内容について

次頁のヒアリングシートには、関連する意見を抽出して記述しています。(※発言のすべてを記載してはいません。)

2 ヒアリング結果

機関・団体名	あきる野市町内会・自治会連合会
面談者	あきる野市町内会・自治会連合会役員6人

	ヒアリング項目	ご意見欄
1	本市における「自殺」対策に関連する懸念事項（問題や課題）	<p>○<u>人と人とのからみあいが必要</u>であり、コミュニティがしっかりしていないといけませんが、自治会は組織率が低下している現状である。</p> <p>○コミュニティが充実すれば人が集まってくる。集まってくれば悩みを話し合える場面が増えるが、役職ばかりが増えて大変である。</p> <p>○<u>男性は自分の殻を破れず、集まりに出てこない。</u></p> <p>○身近にひきこもりがいるのではないか。特に50歳で母親と暮らしている家庭生活ができていない男性。</p>
2	自殺対策計画に入れ込むべき取組（施策や事業）のご提案	<p>○行政は縦割り組織なので、様々な依頼等が各部署から来る。高齢者支援課からは居場所づくり事業、健康課からは健康づくり事業、内容は似ているがそこに我々は駆り出されている。一体となってやれば良いと思う。</p> <p>○<u>男性が外に出てくる仕組みが必要</u>である。</p> <p>○「<u>向こう三軒両隣</u>」「<u>縁側（家に上がり込まずとも縁側でお茶のみするような場）</u>」の復活が必要である。声をかけ挨拶をすることが必要である。</p> <p>○守秘義務等の問題があると思うが、情報を色々持っている<u>民生児童委員をもっと活用</u>してもらいたい。</p> <p>○<u>自殺対策計画という言葉は固い</u>ので、手にも触れないと思う。もっと身近なものとすべきである。</p> <p>○市との連携や取組みは、マトリックスをつくってもらいたい。</p> <p>○ゲートキーパー研修等を自治会で受講することは無理である。</p>
3	本市に必要と思うネットワーク体制	<p>○高齢者支援課の<u>地域まるごと支え合い</u>の中で居場所づくりでは非常に良いスタートを切れた自治会がある。これからのコミュニティを考える原点になる。</p> <p>○民生委員は現役世代であるが、もっと高齢者も任命しないと各家庭の中に入っていけない。普段の見守りができない。そういうつながりがもっと必要である。</p>
4	その他	<p>○なんでも自治会に持って来られても困る。</p>

機関・団体名	あきる野市高齢者クラブ連合会 あきる野市社会福祉協議会
面談者	役員5人 社会福祉協議会職員1人

	ヒアリング項目	ご意見欄
1	本市における「自殺」対策に関連する懸念事項（問題や課題）	<p>○高齢者の自殺者数が多いのは人口が多いからではないか。トータルするとそんなに心配する必要がないように感じた。</p> <p>○<u>引きこもっている男性をどうするのが課題</u>であるが、個人情報なので、引きこもっている人を把握するのは難しい。</p> <p>○あ高連のメンバーになっていないと、引きこもっている人への声かけもできないので、部外秘で地域の人の名簿を渡しても良いのではないかな。</p> <p>○縦割りではなく、高齢者支援課でも自殺対策というキーワードが出てこなければおかしい。</p> <p>○自殺しそうな人のギリギリの支援ではなく、日常の対策が必要である。</p> <p>○イオンモールなどにウォーキングに通いお茶休憩をしていく人もいる。会話はしないが、図書館に通う人も多い。<u>昔のように家でお茶を飲んでいくような場面</u>がなくなった。</p>
2	自殺対策計画に入れ込むべき取組（施策や事業）のご提案	<p>○町内会・自治会や、あ高連などに入ることが当たり前になれば<u>良い</u>。</p> <p>○<u>市内に気軽に集まれる場所</u>が少ない。</p> <p>○<u>教育も大切</u>だと思う。小さい頃から生き方に対する教育、道徳教育をしていくと安易に死のうとしなくなる。</p> <p>○居場所作りが大切だと思う。</p>
3	本市に必要と思うネットワーク体制	※特に関連する発言はなし。
4	その他	※特に関連する発言はなし。

機関・団体名	あきる野市青年会議所
面談者	役員1人

	ヒアリング項目	ご意見欄
1	本市における「自殺」対策に関連する懸念事項（問題や課題）	<p>○<u>相談する場所を把握していない。</u></p> <p>○自殺したという経営者はいないが、仕事で行き詰まり悩む経営者はいると思う。</p>
2	自殺対策計画に入れ込むべき取組（施策や事業）のご提案	<p>○<u>相談する場所をつくる。</u></p> <p>○青年会議所のメンバーは一人ひとりの興味・関心で動いており、誰かが関心を持たないと話にはならない。</p> <p>○<u>外に出てこない人への対応を考える必要がある</u>と思う。</p>
3	本市に必要と思うネットワーク体制	<p>○対面で話さなくても、<u>チャットなどで相談できる場所。</u></p> <p>○<u>自治会や子供会など、若い団体とつながる制度が必要ではないか。</u></p> <p>○青年会議所は基本的に何をやっても良い組織なのだが、我々に<u>情報が届いていない。</u>我々が参加するストーリーが必要である。</p>
4	その他	<p>○<u>最近では外国人が増えており、日本語や労働環境で問題があるがだれに相談して良いか分からない。</u></p>

機関・団体名	あきる野商工会
面談者	職員1人

	ヒアリング項目	ご意見欄
1	本市における「自殺」対策に関連する懸念事項（問題や課題）	<p>○<u>経営者が追い込まれるケースは無くもないが、そのほとんどは多重債務である。ただし、昔とは異なり、生活や命が追い込まれることのないような制度や対応をしている。</u></p> <p>○あきる野商工会は相談に来ている状況から、相談しやすい商工会であると思う。</p> <p>○切羽詰まってから相談に来る経営者は多いが、ソフトランディングするケースもある。</p>
2	自殺対策計画に入れ込むべき取組（施策や事業）のご提案	<p>○経営者や従業員のメンタル面での支援等を求める声は、現在のところあまりない。</p> <p>○市内には<u>ワーク・ライフ・バランス認定の企業</u>がいくつかあるが、その取組の中に<u>ゲートキーパーの育成とかPRすれば良い従業員が集まり、経営者にはメリットがあるので、そういう施策に絡めるのも良いかもしれない。</u></p> <p>○<u>悩みがある従業員がアクセスするサイトとかがあるのか分からない。</u></p> <p>○<u>商工会には部会活動</u>があり、商業部会、建設業部会、工業部会ごとに集まり情報交換をしているが、年に1度は集団勉強回答をしている。また青年部と女性部があり、そうしたところへの<u>橋渡しはできるのではないか。</u></p>
3	本市に必要と思うネットワーク体制	<p>○<u>横のつながりができれば、我々のところに来る人も増えるのではないか。</u></p> <p>○どうしても経営者サイドに立って支援を行っているが、<u>従業員が悩むときに、我々が絡んでの良いのかな</u>とは思う。バランスのとりかたの難しさはあるが。</p>
4	その他	<p>○会員は1,500以上、中小事業者が2,500以上あるので、すべての状況は把握できないのが実際である。</p>

3 ヒアリング結果の取りまとめ

今回ヒアリングを実施した4団体の意見等は、以下のとおり取りまとめられます。

- (1) 本市における「自殺」対策に関連する懸念事項（問題や課題）
- 冒頭事務局より、本市における自殺の状況等について説明し、非常な危機感を持つ団体はありませんでしたが、身近に自殺者との接点があった方々がありました。
 - 地域での活動に男性の参加が少ないことや引きこもり者の増加、経営者が多重債務に追い込まれる等に問題意識が見られ、コミュニティでのつながりが希薄化する中で、今後自殺問題に関連してくることを心配する団体もありました。
 - 市のこれまでのこころの健康づくり対策やその一部としての自殺対策の説明により、現在の取組内容を理解・把握していただいたところ、相談事業等を知らなかった、健康課以外の部署からの情報の流れがない、との声がありました。
- (2) 自殺対策計画に入れ込むべき取組（施策や事業）、ネットワーク体制のご提案
- コミュニティが希薄化する中で高齢者の居場所づくり事業は効果が高いという意見があり、その制度（事業）と行政の縦割りでない取組み（マトリックス的な）が必要である。
 - 「向こう三軒両隣」「縁側」「お茶飲み」のような市民同士の接点、声かけや居場所づくりを増やしコミュニティをつくっていくことが必要との意見は共通してみられましたが、各家庭（世帯）の中まで入ることは各団体には限界があり、民生委員の活動等との連携を充実する必要がある。
 - 「自殺対策計画」という表現自体が固くてなじみにくいことから、市民が理解しやすく受け入れやすい周知方法やツールの提供が必要である。
 - 市民が悩みを相談しやすい窓口や情報サイト等の充実
- ◎ 各団体の意見から、計画の中に入れ込む必要がある取組には以下のようにまとめられます。
- 高齢者の居場所づくり、男性の地域活動への参加を促す取組の充実
 - 団体と行政（市）の情報提供・連絡体制の見直し
 - 民生委員の各家庭（世帯）への支援と関係機関の連携の強化
 - 市民が受け入れやすいソフトな自殺対策の周知